〈社会科〉

テーマ

興味・関心を高める学習指導の工夫

～地域の歴史教材を取り入れた並行学習を通して～

宜野湾市立真志喜中学校　教諭　山城　亨

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……1
Ⅱ　研究目標……1
Ⅲ　研究仮説……1
Ⅳ　研究の全体構想……2
Ⅴ　研究内容……3
　1　新学習指導要領における中学校社会科の改訂のポイント……3
　（1）新学習指導要領の歴史分野から見えてくるもの……3
　（2）並行学習(パイ型学習)を取り入れる意義……3
　（3）学習指導要領における並行学習(パイ型学習)の変遷……4
　2　歴史学習の指導のポイント……5
　（1）地域の歴史教材を取り入れる意義……5
　（2）歴史学習で興味・関心を高める方法……5
　（3）地域の歴史教材を取り入れる視点……5
　3　有機的な関連を図るための工夫……5
　（1）地域の歴史を取り入れた年間計画（試案）……5-7
　（2）地域の歴史を取り入れた歴史分野と地理分野を関連させる内容……7-8
　4　評価方法について……9
　（1）評価方法の変化……9
　（2）評価規準の作成……9
　（3）学習場面からの評価方法……9-11
Ⅵ　授業実践……12
　1　単元名……12
　2　単元の目標……12
　3　単元について……12
　4　授業仮説……12
　5　単元の全体計画……13
　6　本時の展開……14
　7　授業反省会……15
　8　次回の授業（琉球王国の誕生ほか）の単元全体計画（略案）……15
　9　研究仮説の検証……15
Ⅶ　研究の成果と課題……16
　1　研究の成果……16
　2　今後の課題……16-17
　3　終わりに……17

＜主な引用文献・参考文献＞……17

中学校社会科

興味・関心を高める学習指導の工夫
～　地域の歴史教材を取り入れた並行学習を通して　～

宜野湾市立真志喜中学校　教諭　山城　亨

Ⅰ　テーマ設定の理由

現代は、国際化・情報化などが急激に進展している社会であり、国際社会の中で主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することが求められている。そのため、学校教育においてもその実現に向けた取り組みが進められている。

これまでの知識を教え込むことになりがちであった教育への反省から「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、生徒の豊かな人間性や自ら学び、自ら考える力などの「生きる力」の育成を図ることを基本的なねらいとして、平成 10 年に学習指導要領が改訂された。

社会科においても、この趣旨に基づき教科の目標、各分野の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取り扱い等が示された。そして、改訂の基本方針として「内容の厳選」、「学び方を学ぶ学習の充実」、「社会の変化への対応」、「３分野を関連付けて扱う項目の設定」の４点がうちだされた。

ちなみに「学び方を学ぶ学習の充実」では、地域の特性に応じて身近な地域の歴史を取り上げ、学習の過程で調べ方や学び方を身に付けさせること。また、「３分野を関連付けて扱う項目の設定」では、各分野間の独自性を尊重しながらも、分野間の有機的な関連を図るよう工夫することが重視された。以上のことから並行学習を取り入れ、身近な地域を学習することで自ら学び、考え、解決する力である「生きる力」を育むことができると考える。

また、歴史分野の目標においては生徒の興味・関心を喚起するとともに生徒が歴史を主体的に学習することを促すという趣旨から「身近な地域の歴史」が学習する対象として盛り込まれた。私たちの生活する身近な地域である沖縄は、日本の中でも王国時代があったり、薩摩の支配を受けたり、アメリカに支配されたり特色ある歴史を刻みながら歩んできた。このような地域の歴史について興味・関心を持ち主体的に学習していけるようになってほしいと願っている。

ところで、これまでの授業を振り返ってみると学習の過程よりも結果を重視する授業になりがちであった。また、ザブトン型（１年で地理分野、２年で歴史分野を履修）の授業実践をしており、特に歴史の授業では日本史を中心とし、地域（琉球・沖縄）の歴史はあまり力を入れていないなどの反省があげられる。

また、今年度から実施する並行学習のなかでどのようにしたら地域の歴史を有機的に関連付けた歴史の学習指導が行えるか、通常の授業では、扱いが難しい地域の歴史学習に対し、生徒の興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てられるかが課題となる。

そこで、地域の歴史教材を有機的に取り入れた並行学習を工夫し授業に取り入れることで、生徒の歴史に対する興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てることができるのではないかと考えこのテーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

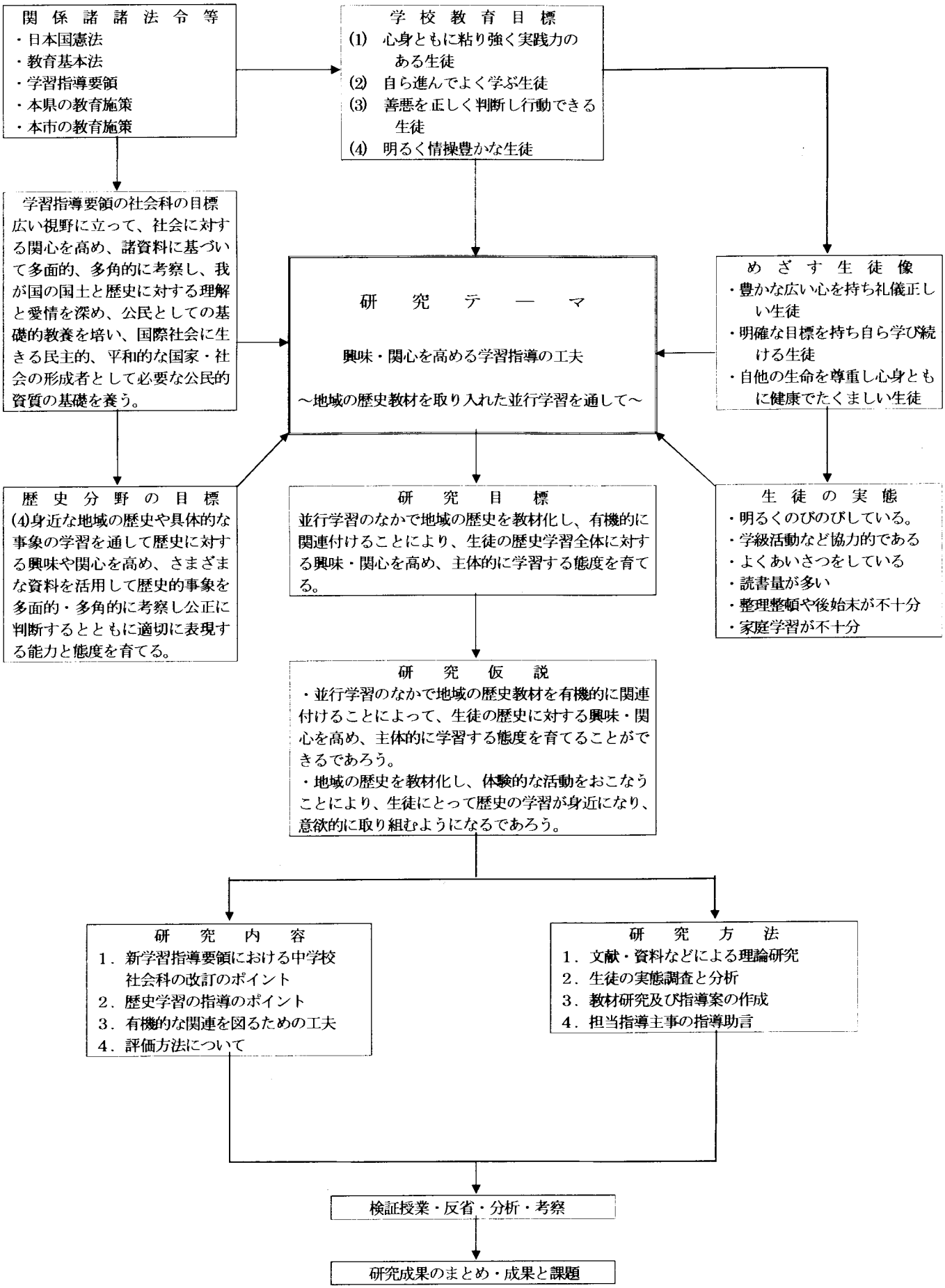
並行学習のなかで地域の歴史を教材化し、有機的に関連付けることにより、生徒の歴史学習全体に対する興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てる。

Ⅲ　研究仮説

１　並行学習のなかで地域の歴史教材を有機的に関連付けることによって、生徒の歴史に対する興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てることができるであろう。

２　地域の歴史を教材化し、体験的な活動をおこなうことにより、生徒にとって歴史の学習が身近になり、意欲的に取り組むようになるであろう。

Ⅳ．研究の全体構想図


関係諸諸法令等
・日本国憲法
・教育基本法
・学習指導要領
・本県の教育施策
・本市の教育施策
学校教育目標
(1) 心身ともに粘り強く実践力のある生徒
(2) 自ら進んでよく学ぶ生徒
(3) 善悪を正しく判断し行動できる生徒
(4) 明るく情操豊かな生徒
学習指導要領の社会科の目標
広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的、多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的、平和的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
研究テーマ
興味・関心を高める学習指導の工夫
～地域の歴史教材を取り入れた並行学習を通して～
めざす生徒像
・豊かな広い心を持ち礼儀正しい生徒
・明確な目標を持ち自ら学び続ける生徒
・自他の生命を尊重し心身ともに健康でたくましい生徒
歴史分野の目標
(4)身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め、さまざまな資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。
研究目標
並行学習のなかで地域の歴史を教材化し、有機的に関連付けることにより、生徒の歴史学習全体に対する興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てる。
生徒の実態
・明るくのびのびしている。
・学級活動など協力的である
・よくあいさつをしている
・読書量が多い
・整理整頓や後始末が不十分
・家庭学習が不十分
研究仮説
・並行学習のなかで地域の歴史教材を有機的に関連付けることによって、生徒の歴史に対する興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てることができるであろう。
・地域の歴史を教材化し、体験的な活動をおこなうことにより、生徒にとって歴史の学習が身近になり、意欲的に取り組むようになるであろう。
研究内容
1．新学習指導要領における中学校社会科の改訂のポイント
2．歴史学習の指導のポイント
3．有機的な関連を図るための工夫
4．評価方法について
研究方法
1．文献・資料などによる理論研究
2．生徒の実態調査と分析
3．教材研究及び指導案の作成
4．担当指導主事の指導助言
検証授業・反省・分析・考察
研究成果のまとめ・成果と課題

V　研究内容

1　新学習指導要領における中学校社会科の改訂のポイント

（1）新学習指導要領の歴史分野から見えてくるもの

新学習指導要領の歴史分野の目標において、「身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味や関心を高め・・・」とあり、自分たちのくらしている地域の歴史を学習することで抽象的・概念的で無味乾燥な歴史学習に陥ることを防ぎ、主体的に学習することを促すという趣旨が示された。

また、内容のなかには、「身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中で我が国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせる」とあり、地域への関心を高め、身近な地域を調べる活動を通して、歴史についての学び方を身に付けることが示されている。

さらに、内容の取り扱いのなかには、「歴史事象の指導に当たっては、地理的分野との関連を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫する」と示され、歴史学習のなかでも以前に学習した地理的分野の内容と有機的に関連させながら授業を展開していくことを求めている。

つまり、これらのことから歴史学習において、身近な地域の歴史を取り入れた授業や学習の結果よりも学習の過程を大事にしていく授業（学び方を学ぶ学習の充実）、地理分野と歴史分野の内容を関連付けることを考えた授業（並行学習）を実践していくことで新学習指導要領の歴史分野の目標を達成でき、生徒の興味・関心を高めることができると考える。

（2）並行学習（パイ型学習）を取り入れる意義

並行学習とは、１・２学年で地理的分野と歴史的分野を、３学年で公民的分野を学習する方式で、ギリシャ語のアルファベット「π」の形に似ていることから名づけられた学習である。新学習指導要領においては、各分野の独自性を尊重しながらも、分野間の有機的な関連を図るよう工夫することが大切であるとされ、今まで地理的分野と歴史的分野を並行して学習させることを「原則」としていたことを「徹底」するよう求めている。

その理由としては、澁澤文隆らは第一に生徒の学習権にかかわることとして次のように述べている。「もし、パイ型履修の中学校とザブトン型履修の中学校との間で転校すると、地理的分野、歴史的分野のどちらかの分野を約半分履修できないという事態が生じる。このことは、生徒の側に立つと学習権が侵害されていることを意味する」としている。

第二に「『生きる力』をはぐくむ社会科の授業改善を推進することに関連してできている」としている。つまり、内容の厳選や学び方を学ぶ学習の充実などとともに、できるだけ分野間の関連を図って教科内においても知の総合化を図る学習を充実することが望まれるようになってきたからであるとしている。

これらのことから「社会科においては、分野制をとるだけに、分化の学習と総合の学習を教科内で適切に実現するよう工夫改善することが大切になっている。そして、そのための条件整備を考えると、並行学習のほうが望ましい」と考える。

（3）学習指導要領における並行学習（パイ型学習）の変遷

昭和22年、26年版学習指導要領
中学校社会科は、分野制社会科ではなく総合社会科（生活単元学習と言われた）。

⇩

昭和30年版学習指導要領
分野制社会科が登場。

⇩

昭和33年版学習指導要領
1学年で地理、2学年で歴史、3学年で政経分野を学習することを原則とする（ザブトン型）を明記。
十分な準備がある場合は、1・2学年を通して地理・歴史分野を学習させることもできる（はじめてパイ型の構想）を示す。郷土という語句を使用。

⇩

昭和44年版学習指導要領
パイ型を原則とする社会科の教科構造が打ち出される。
ただし、この場合3学年で歴史的分野及び公民的分野を学習させる変形パイ型が原則で、分野間の関連は第二義的とされる。
また、学校の実態に即して、従来のザブトン型を採用することも認める。郷土という語句から「地域」あるいは「身近な地域」を使用。

⇩

昭和52年版学習指導要領
パイ型教科構造に新しい理念を示し、分野間の関連を強めて社会科の統合を図ることを重要な理念として示す。
純粋パイ型の教科構造を明確にし、1・2学年の地歴並行学習の上に公民的分野を置く。分野固有の性格を生かしながらも分野相互に関連する内容を取り入れ、社会科としての統合を図り、広い視野、総合的思考を育てようとした。

⇩

平成元年版学習指導要領
昭和52年版の理念を踏襲。
第1学年から地理的分野と歴史的分野を並行して学習させ、その基礎の上に公民的分野を学習させることを原則とするが、学校の実態に即して適切な指導計画を作成することができること。
特に第三学年の授業時数が下限及び上限の幅を持って示された。

⇩

平成10年版学習指導要領
第1学年から地理的分野と歴史的分野を並行して学習させることを原則とし，その基礎の上に第3学年で公民的分野を学習させること。
できるだけ分野間の関連を図って教科内においても知の総合化を図る学習を充実することが望まれる。
名実ともにパイ型学習の原則の徹底が図られている。

2　歴史学習の指導のポイント

（1）地域の歴史教材を取り入れる意義

地域の歴史教材を取り入れる意義としては、第一に具体的な観察や調査が可能で体験もでき、自分たちの身近な地域のことが学習できるということである。第二に生徒が興味・関心を持ちやすいだけでなく、歴史学習全体への興味・関心も高めやすいということである。第三に地域の歴史を知ることにより地域への愛着も生まれ、それらが「わが国の国土と歴史に対する愛情を深め、公民としての基礎的教養を培う」という中学校社会科の目指す目標へとつながるからである。

また、地域の歴史を選択教科の時間ではなく、平素の授業の中で取り入れていく理由としては、地域の歴史を日本全体の歴史と有機的に関連させたり、対比させたりなどしながら生徒自身が歴史を多面的・多角的に考察できるような学習内容にするためである。

（2）歴史学習で興味・関心を高める方法

村岡篤によると興味・関心とは、「流動的で、不定形な行動や対象の中から一つを特に選び出そうとし、反応を選び出す際には期待感のような、また、選び出された反応には、面白みのような感情が伴っている」ものとされている。

歴史学習において生徒の興味・関心を高めるためには、一般に歴史学習は、「暗記物」であり、「先生が説明し授業を進める一斉授業」、「昔のことを学習する教科」として受け止められているため難しいことであると考える。そこで、次の７点を意識した授業計画をたてたり、授業を実践することが興味・関心を高める方法として必要であると考える。

①生徒の実態を把握し、学習課題が明確な指導計画を作成すること。
②調査・発表・見学などの作業的・体験的な学習を準備すること。
③生徒に身近でかかわりが深い地域の歴史事象を教材化・資料化すること。
④知的好奇心を高めるような歴史的事象を課題設定の場面などに取り入れること。
⑤教材配列で、生徒の問題意識が常に持続発展するように単位時間などを工夫すること。
⑥教育機器（ビデオ・パソコン・ＯＨＰなど）の活用を図り、資料の効果的な提示の仕方や生徒による活用法を考え取り入れるようにすること。
⑦各種評価を取り入れ、毎年授業改善ができるような取り組みをすること。

（3）地域の歴史教材を取り入れる視点

地域の歴史教材を取り入れる視点としては、次の４点を意識し、単元ごとに取り入れるように工夫・改善していくことが大切であると考える。

①地域に存在する身近な資料について調査し、計画的・継続的に資料の収集を図り、生徒の興味・関心を引き出すような教材を常に考えていくこと。
②収集した資料の年間指導計画への位置づけを明確にし、資料の学習資料としての具体化を図ること。
③身近な地域の歴史を学習することで、日本全体の歴史の移り変わりが理解できたり、日本全体の学習へと発展していくことができるような教材を取り上げること。
④生徒が見学・調査したことをもとに、課題と結び付け、資料化させることを通して積極的に授業で発表させたり、活用できるようにすること。

3　有機的な関連を図るための工夫

（1）地域の歴史を取り入れた年間指導計画（試案）

並行学習を進めていく中で、どうしても見直しをしなければいけないのはやはり年間指導計画である。いつ、どこで、どの内容（教材）を、どのように地理と歴史を関連付けて授業を実践していくか考えていかなければ有機的な並行学習になりえないと考えるからである。そこで、本年度の年間指導計画を再検討してみたものが次の資料である。

表―1　並行学習における身近な地域の歴史を取り入れた年間指導計画（試案）

学年	第一学年　地理的分野（帝国書院）		第二学年　歴史的分野（教育出版）	
月	単　元　名	時数	単　元　名	時数
4月	地理　地球の姿をとらえよう	9	歴史　世界の動きと全国統一	4
			歴史　幕府政治の確立	3
			島津の琉球侵略・掟十五条	*(1)*
	地理　世界の国々の姿をとらえよう	10	歴史　産業・交通・文化のかかわり	2
6月	*沖縄の日本復帰(1972.5.15)*		*沖縄の日本復帰(1972.5.15)*	
	地理　日本の姿をとらえよう	8	*歴史　行きづまる幕府政治と欧米の接近*	6
	慰霊の日(6.23)		*(琉球処分から沖縄県へ、ペリー来琉)*	*(3)*
	地理　身近な地域を調べよう	8	地理　さまざまな面からとらえた日本	
7月				15
	歴史　*身近な歴史（地域の歴史から考える）*	*6*		
			地理　さまざまな特色を関連付けてみた日本	
9月			*慰霊の日(6.23)*	15
	歴史　人類の出現と古代文明	3		
	山下洞人・港川人		歴史　ヨーロッパ近代化の成立とアジアの抵抗	
	ビデオ沖縄人はどこからきた			
10月				4
	沖縄戦公式終結(9.7)		歴史　明治維新	
	歴史　古代国家の成立	5		
11月	*弥生人との混血（新聞記事）*		歴史　立憲政治の始まりと日清・日露戦争	5
	歴史　古代国家の発展	4		
	按司・三山時代・尚巴志		*謝花　昇*	6
	歴史　武家政治の始まり	5	歴史　第一次世界大戦	
	源為朝伝説・運天港			
12月	**歴史**　*ゆれる武家政治*	10	歴史　*第二次世界大戦と日本*	6
	(琉球王国の誕生・中継貿易・泡盛・玉城朝薫・万国津梁の鐘)	*(4)*	*(沖縄戦から考える)*	
				11
1月			歴史　*第二次世界大戦後の日本と世界*	*(3)*
	地理　都道府県を調べよう（沖縄の地理ほか2県）	15	*(沖縄の日本復帰と戦後の芸能、さまざまな課題)*	
2月				12
	地理　世界の国々を調べよう	7		
3月				*(2)*
	総　時　数（地理 57 歴史 33）	90	総　時　数（地理 30 歴史 60）	90

黒く太い斜め文字の箇所が地域の歴史を取り入れたもの

この年間指導計画（試案）は、一学年では地理分野（身近な地域を調べる）から歴史分野（身近な歴史）、そして歴史分野（琉球王国の誕生）から地理分野（沖縄県の地理へ）、二学年では、歴史分野（琉球処分から沖縄県へ、ペリー来航）から地理的分野（さまざまな面からとらえた日本）、そして歴史分野へという有機的な関連を中心に意識して配置を考えてみたものである。

時数的な面から見ると、一学年では地理が歴史より 24 時間多く地理分野の学習に時間をかけ、２学年では歴史が地理より 30 時間多く歴史分野の学習に時間をかけ、総時数的には、歴史が地理にくらべ６時間多くなっている。

（２）地域の歴史を取り入れた歴史分野と地理分野を関連させる内容

①歴史分野の「身近な歴史」の授業は、地理的分野の「身近な地域を調べよう」の単元を学習した後でおこなうようにする。「身近な地域を調べよう」の単元では、地図の見方や縮尺、等高線の読み方、地図記号、距離の求め方などを学習するため「身近な歴史」を学習するときの基本的な知識や技能を学習できる点やフィールドワークなどの体験的活動と有機的な関連をはかれる点などがあげられる。また、地理分野から歴史分野へ移行していく最初の単元なのでできるだけ生徒に身近なところから歴史の学習を始められるようにという点で配置をしている。

②歴史分野の「琉球王国の誕生」は、三山の興亡のなかで尚巴志が統一を達成し、琉球王国が誕生し、そして中国・東南アジア・日本・朝鮮などとの貿易がおこなわれ、琉球が一番繁栄している時期で生徒の興味・関心が高められると思われる。また、インターネットでも検索しやすく文書資料も多く生徒の手に入りやすい。さらに、地理分野の「都道府県を調べよう」であつかう沖縄県とも関連付けやすく、その後の地理分野の「世界の国々を調べよう」では、中国・東南アジアとの歴史的関連なども学習できることを考えて配置している。

時間的な余裕がある場合には、文化的な側面（琉球舞踊や三線・泡盛・琉歌など）にもふれることで、生徒の身近なものを調べさせたり、聞き取りさせたりできると思われる。

③歴史分野の「琉球処分」は、南海の小国であった琉球にどうして幕府や薩摩が注目しその支配を目指したのかを当時の琉球の地理的位置や中継貿易をとおして考えさせられる。

また、幕府政治から明治政府への世代わりのなかで、琉球王国から琉球藩へ、琉球藩から沖縄県に至る王国の終焉そして、宮古・八重山諸島が中国になりかけた分島・改約案などがあり沖縄にとって大きな歴史のドラマが展開したときである。そこでは、琉球が徳川家康という日本の歴史上欠かせない人物とのかかわりもあったことや琉球が中国の一部になったかもしれない歴史の転換点などが学習でき、生徒の興味・関心も高まると思われるということで配置している。

④歴史分野の「第二次世界大戦と沖縄戦」、「第二次世界大戦後の日本（沖縄）」は、その後の沖縄の現状を知るうえでどうしても欠かせない事柄になるし、戦争や平和を考える上ではどうしてもはずせない内容である。

また、長らく米軍統治の時代があり日本国憲法の下での生活を望んでいた沖縄の人々の願いや思いを日本復帰という形にしていった過程や現在の生活環境とのかかわりでとらえさせたい。また、常に５・１５の日本復帰の日にはメディアでその特集などが組まれ、生徒も目にしやすく関心を高めてくれるものとなるだろう。

さらに、３年生に進級してからの公民分野の中で現代社会や憲法、日本の政治を学習するなかでも大事であるし、何よりも今の沖縄の現状や日本、世界の動きを多角的・多面的に考えることにつながると考え配置している。

表―2　地域の歴史と地理的分野の有機的関連

歴史的内容		地理的内容
身近な歴史 (1)地図を用いた遺跡順路 (2)ワークシートを利用した調査 (3)博物館での観察・調べ学習 (4)まとめ方・発表の方法 (5)その他	有機的関連が考えられる内容 ⇔	身近な地域を調べよう (1)地形図の利用（ルートマップ） (2)資料をつかったグラフの作り方・使い方 (3)地域調査方法 (4)まとめ方・発表の方法 (5)その他
ゆれる武家政治 （琉球王国の誕生） (1)グスクから三山時代 (2)琉球王国の誕生 (3)尚の名称、被弁服など (4)大交易時代（中継貿易） (5)当時の特産品 (6)その他	有機的関連が考えられる内容 ⇔	都道府県を調べよう （沖縄県を含む） (1)首里城等の関連遺産群 (2)北部・中部・南部の名称 (3)中国との交易 (4)地理的優位性（中国・東南アジア） (5)現在の特産品農産物等 (6)その他
行きづまる幕府政治と欧米接近 （琉球処分から沖縄県へ、ペリー来航） (1)琉球王国と家康・島津の関係 (2)島津の侵略年度とその様子 (3)掟十五条の内容 (4)ペリー来琉の目的と海外情勢 (5)琉球藩設置と沖縄県誕生（琉球処分） (6)分島・改約案の内容 (7)その他	有機的関連が考えられる内容 ⇔	さまざまな面からとらえた日本 （沖縄県を含む） (1)江戸、薩摩、琉球の位置関係 (2)日本の農業地域（サトウキビ） (3)沖縄と中国との関係 (4)日本の漁業（鯨漁） (5)(6)沖縄県の特色 (7)その他
第二次世界大戦と日本 （沖縄戦から考える） (1)当時の世界情勢 (2)軍事上の要の沖縄 (3)戦中・戦争直後の沖縄 (4)その他	有機的関連が考えられる内容 ⇔	さまざまな面からとらえた日本 （沖縄県を含む） (1)各国の地理的関係 (2)沖縄の位置 (3)産業別人口 (4)土地利用図 (5)その他

表―1の年指導計画（試案）の内容とかかわらせながら参照する。

4　評価方法について

（1）評価方法の変化

平成 14 年度から新学習指導要領が実施されたが今回の改訂では、完全学校週５日制の下で、それぞれの学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、新学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに自ら学び、考える力などの「生きる力」を育むことが示された。

これらを実現するために生徒の学習の評価の在り方について、平成 13 年 12 月に教育課程審議会から答申が出された。この答申の中で、「観点別学習状況の評価を基本とする現行の評価方法を発展させ、目標に準拠した評価を一層重視するとの基本的な考え方に立ち、指導要領における各教科の学習記録の取り扱いについて、観点別学習状況を評価の基本とすることを維持するとともに、評定を目標に準拠した評価に改めること」とされている。

つまり、観点別学習状況の評価を基本として、従来の集団に準拠した評価（相対評価）から目標に準拠した評価（絶対評価）への転換を求め、児童生徒の学習の到達度を適切に評価していくことが重要であるとしている。

（2）評価規準の作成

国立教育政策研究所は、新学習指導要領の告示に伴いそのねらいを実現するために児童生徒の学習の評価の在り方について研究開発を進めてきた。

そして、平成 13 年度５月には、「評価規準、評価方法等の研究開発（中間整理）」を公表した。平成 14 年２月には、これまでの検討の結果を「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料―評価規準、評価方法等の研究開発（報告）」としてまとめた。この中には、各教科の評価規準が「内容のまとまりごとの評価規準およびその具体例」として示されている。

そこで、社会科歴史分野の「内容のまとまりごとの評価規準」は国立教育政策研究所から出された規準を参考とし、本研究の中では、実際に授業を実施した、あるいは、これから行なう予定の歴史的分野の単元の評価規準を作成し活用とする。

（3）学習場面からの評価の方法

澁澤文隆らは、「中学校社会科の絶対評価規準づくり」のなかで「評価規準の作成という視点から、特に学習場面をイメージして評価を考えることの重要性」を述べている。「評価規準を作成する際には、指導計画や学習過程に応じてどのような評価が可能かイメージしなくてはならい」と述べ、分野の目標などから評価規準を考えると抽象的な表現になり「実際に評価活動をおこなおうとしても評価場面や評価方法が思いつかないこと」になるので「評価は、学習に関わる生徒の『現れ』（行動）に対してなされる」ことが大事であると述べている。そこで、今回研究した地域の歴史分野の中で歴史分野の四つの観点がどのような評価場面として適当なのか、どのように生徒の学習活動が「現れ」（行動）となり評価できるのかをそれぞれの観点から整理し活用した。

表―3　単元の評価規準と評価の学習場面

評　価　規　準	評　価　場　面	十分満足　(A)	概ね満足　(B)	努力要する（C）
社会事象への関心・意欲・態度				
お札をとおして歴史上の人物などが使われていることについて発言している。	お札を使った導入の場面	発問に対して複数の発言をしている。	発問に対し一人くらいの人物を答えようとしている	発問に対して答えず、こちらに注目していない。
ワークシートの記入の際に全部の項目をまとめようとする。	ワークシートへの記入の場面	ワークシートをほとんど埋めている。	ワークシートの半分くらいを埋めている。	ワークシートの三割くらいしか埋めていない。
身近な地域のフィールドワークの際に積極的に見て、調べようとしている。	フィールドワークをしている場面	実施場所で調査対象の事物を何度も見たり、調べたりしている。	実施場所で調査対象の事物を見たり、調べている。	実施場所で調査対象の事物に対してみようともしない。
社会的な思考・判断				
課題をまとめる段階で、俳句風の記事をまとめようとしている	資料をグループでまとめる場面	選択した課題をいままで学習した複数の内容と関連づけて説明することができる。	選択した課題をいままで学習した一つの内容と関連づけて説明することができる。	選択した課題をいままで学習した内容と関連づけて説明できない。
発表後に、自分の考えをまとめることができる。	発表の場面	ワークシートに自分の理由を詳しく数行で説明している。	ワークシートに自分の理由を数行で説明している。	ワークシートに自分の理由を一行以下で説明している。
資料活用の技能・表現				
資料をつかい自分たちの発表する課題の記事（俳句ふうを含め）を作成することができる。	資料をグループでまとめる場面	選択した課題についてわかりやすくまとめている。	選択した課題についてまとめている。	選択した課題の内容からずれてまとめている。
作成した資料をつかい、自分たちがまとめたものをわかりやすく発表することができる。	発表の場面	聞き手を意識し聞き取れるように発表をしている。	まとめたものを発表をしてい	下を向いたり,漢字に詰まったりして発表している。
社会的事象についての知識・理解				
授業実施後のアンケートの中で学習した内容を答えることができる。	授業実施後のアンケート記入の場面	知っている遺跡などの質問事項に三つ以上答えている。	知っている遺跡などの質問事項に二つ程度答えている。	知っている遺跡などの質問事項に一つだけ答えている

表―4　単元の評価規準と評価の学習場面

評　価　規　準	評　価　場　面	十分満足　(A)	概ね満足　(B)	努力要する（C）
社会事象への関心・意欲・態度				
グスクの名称や三山の名称・尚の名前の由来などを積極的に発言しようとしている。	ＯＨＰ使用時の導入の場面	発問に対して複数回の発言をしている。	発問に対し一回の答えようとしている	発問に対して答えず、こちらに注目していない。
各課題をワークシートに記入しているか。	ワークシートへの記入の場面	すべての課題をワークシートに書いている。	課題のうち半分をワークシートに書いている。	課題を一つだけワークシートに書いている。
社会的な思考・判断				
課題について、多面的・多角的な面から自分なりの考察をしている。	課題について自分なりに考察する場面	課題を学習した複数の内容と関連づけて説明することができる。	課題を学習した一つの内容と関連づけて説明することができる。	課題を学習した内容と関連づけて説明できない。
万国津梁の鐘の文をもとにして課題について、自分の考えをまとめることができる。	資料をもとにして自分で課題を考察する場面	ワークシートに自分なりの考察の理由を数行で説明している。	ワークシートに自分なりの考察の理由を１・２行で説明している。	ワークシートに自分なりの考察の理由を説明できない。
資料活用の技能・表現				
インターネットをつかい、課題について調べることができる。	インターネットを利用する場面	インターネットを使い、課題についてすべて調べまとめている。	インターネットを使い、課題について半分程度調べてまとめている。	インターネットは使用しているが、課題について調べていない。
資料をつかい大交易時代の琉球からの輸出品や輸入品などを調べることができる。	資料をグループでまとめる場面	課題についてわかりやすくまとめている。	課題についてまとめている。	課題の内容からずれてまとめているかまとめていない。
社会的事象についての知識・理解				
授業後の豆テストで学習した内容を理解し、知識を身に付けている。	授業実施後の豆テストの場面	問題に八割程度正答できている。	問題に五割程度正答できている。	問題に三割程度しか正答できていない。

Ⅵ　授業実践

検　証　授　業　指　導　案

２００２年7月１７日（水）２校時

宜野湾市真志喜中学校

１年３組男子１７名、女子２０名、計３７名

授業者　　山城　亨

１，単元名

身近なものから歴史をさがそう

２，単元の目標

本単元は、中学校における歴史学習の最初の授業である。そのため、歴史学習への興味・関心を高めるために、生徒の身近なものから歴史を意識させ、身近な地域の歴史をフィールドワークにより体感させ、図書資料を調べることにより歴史に対する意欲を育てたい。また、単元最後の授業ではお互いが調べてきたものを他の人に対してわかりやすく発表し、表現力を高めていきたい。

３，単元について

（１）教材観

現代の社会は、国際化・情報化などが急速に進展している社会で、国際社会の中で主体的に生きていく上で必要な資質や能力を育成することが求められている。そのためには、まず自分の足元である地域のことをできるだけ知り、そのうえに立って周囲のことを観察する力や理解する力を育成する必要があると思われる。そのため、学校教育においても総合学習や地域を巻き込んだ体験学習など、地域理解や地域の人材を活用した取り組みなどが進められている。

学習指導要領の歴史分野の目標においても生徒の興味・関心を喚起するとともに、生徒が歴史を主体的に学習することを促すという趣旨で「身近な地域の歴史」が学習する対象として盛り込まれている。

沖縄は、他の都道府県のなかでも三山時代から琉球王国、琉球処分、そして第二次大戦下の日本では唯一の地上戦を経験し、米軍支配時代、さらに日本へ復帰という特異な歴史を歩んできた。沖縄で実際に生活している生徒たちが、それらの沖縄の歴史に対して興味・関心をもってもらい、さらに主体的に学習していけるようになってほしいと考える。

（２）生徒観

男女の仲が良く、積極的に発言する生徒が男女数人みられる学級である。

落ち着いて授業をうける雰囲気がある。

ただし、男女各二人程度は、授業に対しては消極的な態度をもっているようである。

歴史学習に対するアンケートからは、「好きだ・好きなほうだ」を合わせた生徒が47パーセント、「嫌いだ・嫌いなほうだ」を合わせた生徒が 53 パーセントと半数近くが好意的に受け止めている結果がでており、歴史学習に対しての学習態度は積極的であり、興味・関心を一層高める指導をしていきたい。

（３）指導観

生徒にとって中学校で初めての歴史の授業であることを考え、まず歴史が私たちの身近なものと関連し合っていることや歴史を学ぶことの意義、大切さを感じさせてから実際の授業に入りたい。次に歴史の授業を進めていくうえで理解しておかなければならない用語などを整理し、年表の見方を身に付けておく必要があると考える。

また、実際に校外に出ることによって身近な地域にある地域の歴史教材を知り、ワークシートを使い調べることで歴史学習に対する興味・関心を高めていきたい。最終的には、設定された学習課題をグループで決定し、まとめ、それを他の生徒に伝えたりするなど表現力を身に付けさせていきたい。

そして、今年度から実施する並行学習のなかで、地理的分野と歴史的分野をどのようにしたら有機的に関連付けた学習指導を行っていけるかを検討しながら進めていきたい。

４，授業仮説

（１）身近な歴史教材を活用することにより歴史学習に対する生徒の興味・関心を高めることができるであろう。

（２）ジグソーメッソド法で発表することで生徒一人一人が熱心に調べ発表することができるであろう。

5，単元の全体計画

（1）1時間目　どうして歴史を学ぶのだろう、歴史学習にはいる前に。

（2）2時間目　歴史学習を進めるにあたって大切なもの。

（3）3時間目　身近な地域を知ろう。

（4）4時間目　課題を決定しよう。

（5）5時間目　課題についてグループでまとめてみよう（俳句風に）。

（6）6時間目（本時）まとめたものを発表しあおう（ジグソーメッソド法で）。

この子が察度になるんだね。

6，本時の展開

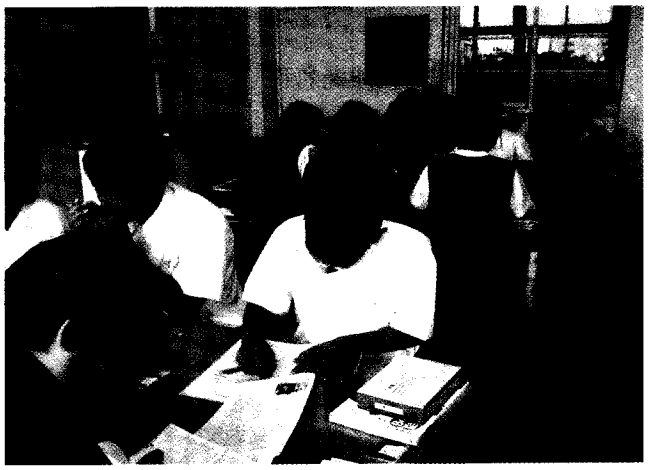
（1）単元名

身近な地域の歴史について（まとめたものを発表しあおう）

（2）本時のねらい

①グループで調べたりまとめたことを、わかりやすく他のグループの人たちに発表し、まとめさせる。

②他のグループの発表を聞き、まとめることで、地域の歴史に対する興味・関心を持たせる。



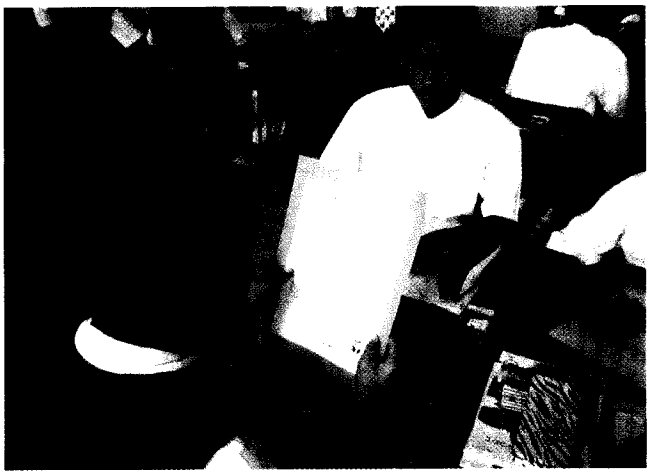
ヨッシャー。調べるぞ。

（3）本時の授業仮説

①俳句風にまとめた課題を発表し聞くことで、身近な地域の歴史に対する興味・関心が高まり、理解が深まり、知識として定着するだろう。

②選択した課題をジグソーメソッド法で発表することで身近な地域の歴史に対する表現力が育つであろう。

どれどれ、何が書いてあるか調べよう。



それでは発表しますよ。しっかり聞いてね。

（4）本時の展開

過　程	学　習　内　容	教　師　の　活　動	生　徒　の　活　動	留　意　点
つかむ	今日の流れ （一斉）	今日の発表の方法について確認させる	発表方法を確認する。	今日の授業の流れを確認する。
移動する		グループをつくりなさい。 新しい班に移動しなさい。　5分	移動する。	
発表する & まとめる	グループで発表 ・港川人 ・大山洞人 ・安座間遺跡 ・羽衣伝説 ・察度 ・琉球沖縄名称	発表しなさい。一人時間は3分です。その発表者の俳句風まとめをワークシートにまとめる時間を2分とします。時間はここで計ります。では始めなさい。 30分	発表する。 発表者の俳句風の内容をまとめる。	発表者・聞き手の態度について注意する。
思考を共有する	学習内容の再確認 	この六つの課題発表の中であなたが一番印象に残ったのは、どの発表でしたか。指名された人は、その理由を発表しなさい。　5分	指名された生徒は読み上げる。	机間巡視をして共有できる内容の検討をしておく
まとめ	この単元のまとめ	この単元をとおしてのねらいとまとめをします。聞きなさい。　5分	まとめを聞き、ワークシートに書く。	短めに要点を絞ってまとめるようにする。
評価する	自己評価と感想	自己評価をしなさい。 最後にこの六時間の授業をとおしての感想を書きなさい。　5分		時間がなければあとで書いておくように指示する。

（5）自己評価

①この単元をとおして身近な地域の歴史に対して興味・関心を持つことができたか。

②この単元をとおして身近な地域の歴史に対し関心のある課題を設定できた。

③身近な地域の歴史に対して様々な資料をまとめたり、発表できたか。

7，授業反省会（意見・指導助言）

○ できれば学習指導要領にも博物館の活用などが示されているので時間的な計画などを再検討して実施できるようにして欲しい。

○ ジグソーメソッドで発表させたのは　個々の生徒の活動を生かし　個性を発揮できる面では有効であったので　司会進行なども各グループの生徒で行なえればよかった。

○ 発表していく中で声が小さく聴き取りのできないような生徒がいたのでもう少し事前の指導をしたほうがよい。

○ 俳句風にまとめたのは、リズムがでて思考に働きかけ、調べた内容を定着させるのには効果的であると思う。

○ 発表の後の待ち時間に質疑応答の時間を設けるなどの工夫をしておけば、発表者も聴き手ももっと真剣さが増し、課題の内容を深めていくことができる。

○ 各グループに発表する課題に対するレジュメや年表・地図など視覚に訴える資料を配布すると発表している内容がさらにわかりやすくなる。

○ 指導案に発問と指示が同じように枠組みで示されていたが、主として発問を取り上げたほうが生徒の活動を見るためにはよいので指示入れなくてよい。

8，次回の授業（琉球王国の誕生ほか）の単元全体計画（略案）

（1）1時間目　琉球王国から大交易時代までをおおまかにまとめながら、課題を提示。

（2）2時間目　琉球王国から大交易時代までをおおまかにまとめながら、課題を提示。

（3）3時間目　インターネットをつかい、課題を解決していく。

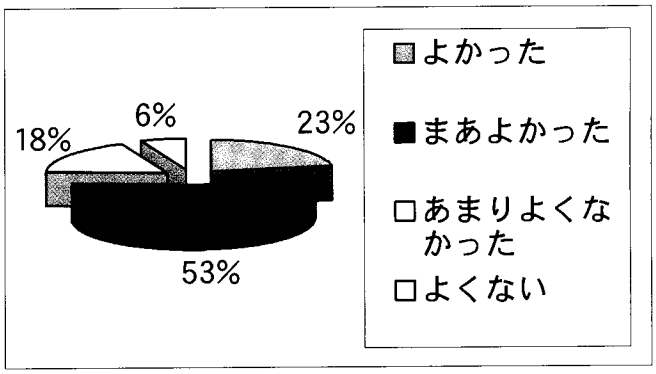
（4）4時間目　課題について発表し、課題解決をみんなで図り、最後に豆テスト実施。

9、研究仮説の検証

（1）研究仮説　1　の検証

並行学習のなかで地域の歴史教材を有機的に関連付けることによって、生徒の歴史に対する興味・関心を高め、主体的に学習する態度を育てることができるであろう。

授業は、7月の半ばごろで太陽の照りつける時間帯であったにもかかわらず、生徒のアンケートからは、地域のフィールドワークを取り入れた授業に対して76%と肯定的な評価がされた。

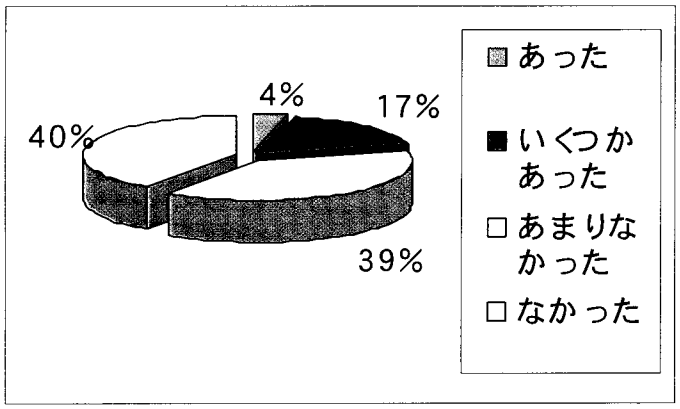


また、「校外に出て、いろいろなところを回って、身近な地域の歴史がよくわかった」や「外に調べに行って、暑かったけれど楽しかったしおもしろかった」、「今まで外に出たりする授業はなかったので、外に遺跡を調べに行ったりしておもしろかった」などとアンケートに書いてくれた生徒もいた。その点では、フィールドワークという体験的な手法を用いて地理的分野と歴史分野との関連を図り授業を実施できたことで興味・関心を高められたのではないかと思う。

さらに、「意外と楽しかったので、ぜひまたやりたい」、「歴史はあまりわからなかったけれど、もっと調べてみたい」、「外へ調べにいって暑かったが、もっと調べてみたいと思った」などと書いてくれる生徒が半数近くおり、主体的

な学習へ向かう態度がみられる。

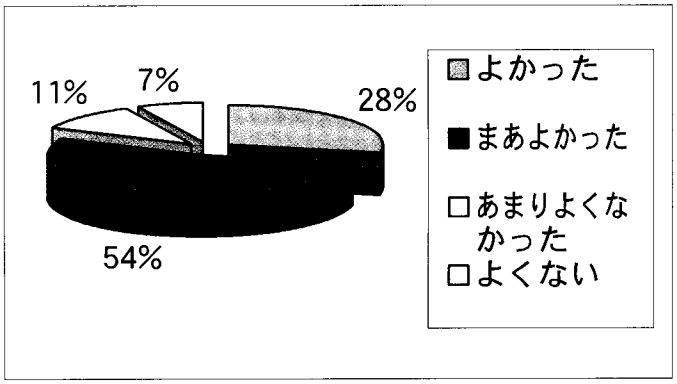
「地理的な分野と関連する授業内容はどこか」という質問に対しては、生徒の大半が地図の使用をあげていたが、実際には、事前に計画していた内容を終わらすことができずに不十分なまま本時の授業を終了した。そのため、授業後の生徒のアンケートからは、「地理的分野と関連する授業だったと思うか」の問いに対しては、肯定的な評価は、21%で、否定的な評価は、79%であった。この結果からは、仮説でとなえた有機的な関連付けをすることまでにはいたらなかったと考える。



（2）研究仮説　2　の検証

地域の歴史を教材化し、体験的な活動をおこなうことにより、生徒にとって歴史の学習が身近になり、意欲的に取り組むようになるであろう。

地域の歴史教材を扱うことに対しては、授業後のアンケートからは、肯定的な評価は82%で、否定的な評価は、18%で多くの生徒が地域の歴史教材を取り上げたことに対しては評価していることがわかる。



また、肯定的な評価をしていた生徒のうち「沖縄や宜野湾の歴史を知ることができた」と答えた生徒が、授業実施前に7人しかいなかったが、実施後になると32人に増加（複数回答）している。この結果からは、地域の歴史の教材化を図ることは、そこに住む生徒の歴史的興味・関心を高めることが十分できたと思う。また、授業後の生徒のアンケートからも「自分の家の近くに遺跡があることを知ってびっくりした」、「自分の家の近くやよく遊んでいた公園が遺跡だったことなど、身近な歴史が6時間の授業でいろいろわかった」、「6時間の授業を通して歴史がなんとなく楽しかったです。歴史が好きになれそうです」など身近な地域の歴史を通して歴史全体への興味・関心を高められたことが考察できる。

Ⅶ　研究の成果と課題

1　研究の成果

○ 身近な地域の歴史を授業の中に取り入れていくことで、歴史に対する生徒の興味・関心を高めることができたし、自分自身も改めて地域の歴史を授業の中で取り上げていくことの重要さを実感することができた。

○ 並行学習を進める上で地域の歴史教材を取り入れた年間指導計画を作成することができ、これからの授業実践の中で生かすことができる機会となった。

○ フィールドワークのように学校外での学習活動をうまく活用していくことで、生徒の興味・関心だけでなく主体的な学習態度を育成するのに役立つことがわかった。

○ ジグソーメソッド法や俳句風のまとめ方などさまざまな自分にとって新しい学習法を学び、実践する機会を得られ、これからの授業実践に活用できることを学ぶことができた。

2　今後の課題

○ 並行学習を進めるなかで有機的な関連を生かす授業内容をもっと研究し実践していくこと。

○ 並行学習を進めるなかで有機的な関連を生かした項目を評価の場面で位置づけ、それを中心とした授業を実施すること。
○ フィールドワークをおこなう場合や学校外の施設を利用する場合の時間配分や単元の時間設定の方法に対して毎年見直し改善していく努力をしていくこと。
○ 地域の施設や人材をできるだけ多くの機会をとおして活用できるようなてだてを考えていくこと。
○ 生徒の活動を主にした地域の歴史の指導案づくりや誰でも気軽に扱えるような指導案づくりを絶えず行なっていくこと。

3　終わりに

教職について 14 年目を迎えているが、毎年漠然と授業を終えてしまったような気がする。そこで今回思い切って４月から半年間現場を離れ、「マンネリ化した授業を変えてみよう」と教科の研究に取り組んできた。この期間中に多くの仲間や書籍に出会い、研修を積み、最新のコンピューターにも触れ、その操作術も何とかできるようになってきた。これらは、私にとっては、大変有意義で今までの自分と日々の授業を振り返るよい機会になった。この経験をこれからの教育実践に生かしていきたいと思っています。

このような機会を与えた下さった宜野湾市教育研究所所長の宮城勇孝先生、真志喜中学校校長長崎光義先生、ご多忙のなか研究テーマの決定から研究報告書作成まで指導していただいた宜野湾市教育研究所研修係長の新垣英司先生、嘉手納高等学校の新城俊昭先生、そして、いろいろなパソコンソフトの使用の仕方や悩んだときに話し相手になってもらった研究教員の下里光盛先生、喜久里成子先生、若葉教室の先生方、検証授業に協力してくださった真志喜中学校の職員の皆さん。多くの方々に感謝を申し上げます。

<主な引用文献・参考文献>

・文部省『中学校学習指導要領(平成 10 年 12 月)解説―社会編―』大阪書籍，2000。
・佐伯眞人・大杉昭英・澁澤文隆共著『新中学校教育課程講座』ぎょうせい，2000。
・大森照夫等『新訂　社会科教育指導用語辞典』教育出版，1993。
・小関洋治『新学習指導要領の指導事例集　中学校社会科２　新しい歴史分野の指導事例』明治図書，1991。
・篠原昭雄・唐澤勝敏『中学校社会科　歴史の学習課題づくり』明治図書，1994。
・次山信男『小学校社会科実践課題別研究　地域素材を生かす社会科単元の開発』東洋館出版社，1988。
・松本浩毅・高梨眞佐岐・半田均『学習意欲を育てる社会科授業』明治図書，1986。
・佐島群巳・次山信男・魚地伸子『社会科指導の基本と発展 3　地域を扱う学習の方法と授業』教育出版，1987。
・澁澤文隆『新学習指導要領中学校社会科地理のキーワード 5　興味・関心を高める身近な地域の指導』明治図書，1990。
・小関洋治『新学習指導要領中学校社会科歴史のキーワード 3　身近な地域の歴史の学習』明治図書，1990。
・国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(中学校)－評価規準、評価方法等の研究開発(報告)－』2002。
・澁澤文隆『中学校社会科の絶対評価基準づくり』明治図書，2002。